

## ◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は0.18(12例)で、第43週以降連続して報告があり、過去5年間平均値(0.09)を上回っています。年齢階級別では、20～29歳 4例(33.3%)が最も多くなっています。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は0.68で、過去5年平均値(0.93)を下回っていますが、第41週以降、増加傾向を示しています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.24で、過去4年平均値(0.08)に比べ多い状態が続いています。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は4.76で、過去5年平均値(9.73)を下回っていますが、第42週以降、増加傾向を示しています。

## ◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

- ・ 本年7月から9月末までに報告があったエイズ患者数及びHIV感染者数がまとまりました。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

ありません。

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ <sup>a</sup>	インフルエンザ <sup>a</sup>	0.18	12
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.76	195
	② 水痘	0.68	28
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.54	22
	④ RSウイルス感染症	0.24	10
	④ 突発性発しん	0.24	10
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

### 病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
クレブシエラ(1)	熱性けいれん(第39週)	UR	肺炎球菌(2)	かぜ症候群(第36週) かぜ症候群(第36週)	NP NP
インフルエンザ菌b型(1)	かぜ症候群(第36週)	NP	黄色ブドウ球菌(1)	かぜ症候群(第36週)	NP

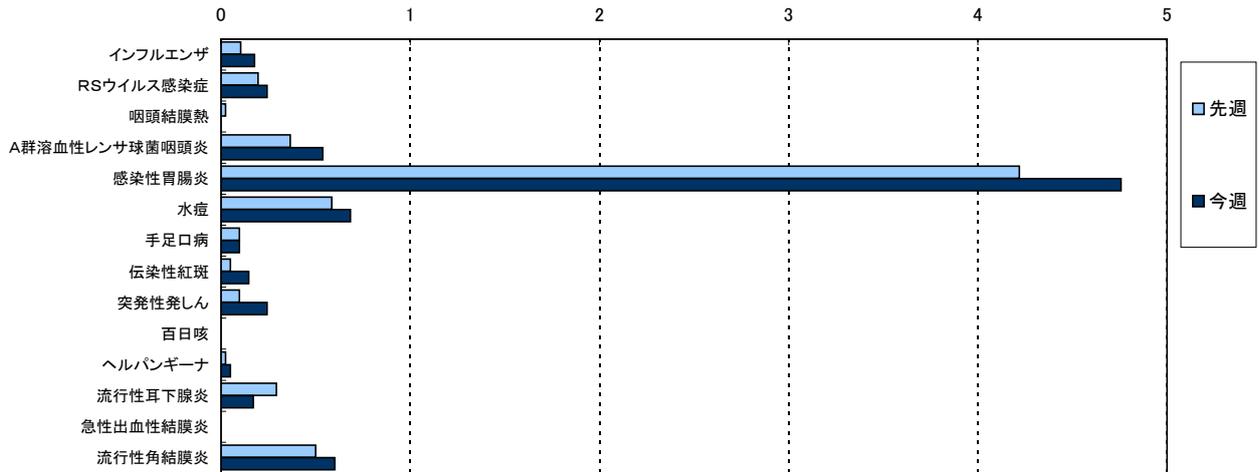
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

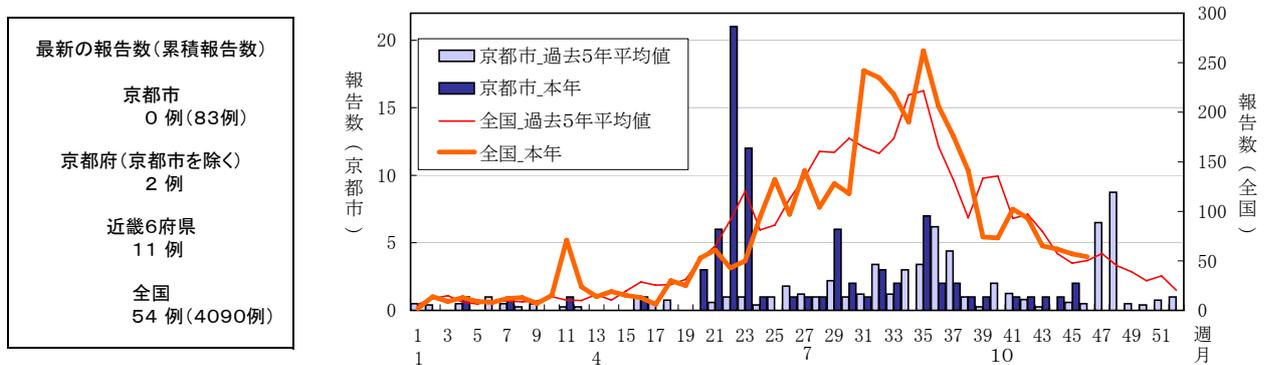
(注) 京都市のデータは、平成20年11月20日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
 また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
 病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第46週)と先週(第45週)の定点当たり報告数の比較

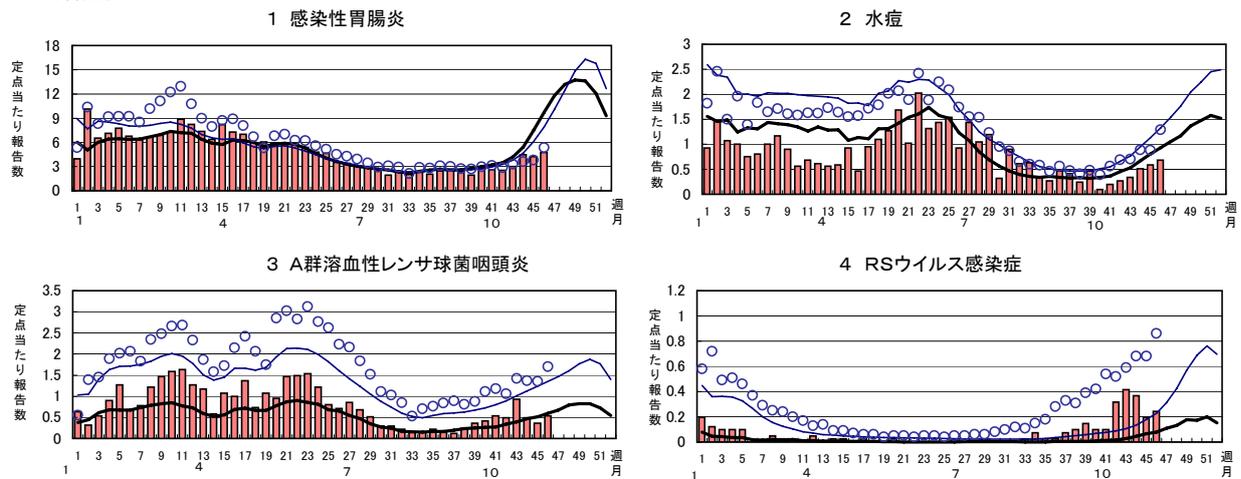


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

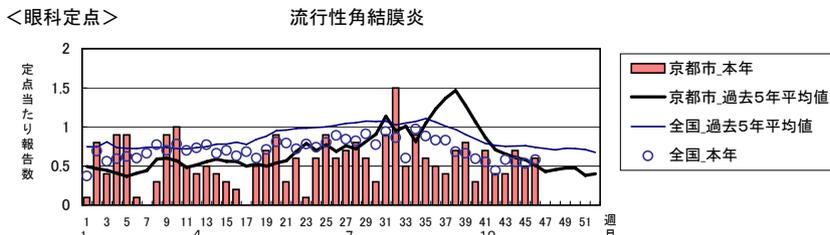


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 今週(第46週)のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

本年7月から9月末までに報告があったエイズ患者数及びHIV感染者数がまとまりました。

この3箇月間に、新たなHIV感染者3例(急性HIV症候群 1例, 無症候性キャリア 1例, その他 1例)の報告がありました。(累積報告数は、エイズ患者 3例, HIV感染者 12例, 合計 15例です。)

内訳は、すべて男性、日本国籍で、推定感染経路は同性間性的接触 1例, 異性間性的接触 1例, 不明 1例で、推定感染地域は日本国内です。

平成11年以降、1月～9月の報告数では、HIV感染者は、平成18年に次いで多くなっています。

なお、昭和62年以降の本市における累積報告数は、エイズ患者50例, HIV感染者119例です。

本市では、性感染症検査(梅毒, 淋菌, クラミジア, 肝炎ウイルス[B型, C型])も同時に受けることのできる平日昼間検査(市内各保健所, 予約不要), HIV土曜検査(財団法人京都工場保健会, 予約制), 夜間HIV即日検査(下京保健所, 予約制)を無料で実施しています。

詳細については、<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000034033.html> で御確認いただけます。

### 平成20年7月～9月末までに報告のあったエイズ患者及びHIV感染者の詳細

		男性				女性		計
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	20歳代	30歳代	
国籍	日本	(1) 1 (4)	(1) 1 (1)	(1) 1 (1)	(1) (1)			(3) 3 (7)
	不明		(1)	(2)		(1)	(1)	(0) (5)
推定感染経路	同性間性的接触	(1) (3)		1 (1)	(1) (1)			(2) 1 (5)
	異性間性的接触		(1)			(1)		(1) 1 (2)
	静注薬物使用						(1)	(0) (1)
	不明		1 (2)	(2)				(0) 1 (4)
推定感染地域	日本国内	(1) 1 (4)	1 (2)	1 (3)	(1) (1)	(1)		(2) 3 (11)
	日本国外						(1)	(0) (1)
	不明		(1)					(1) (0)

上段 エイズ患者  
下段 HIV感染者  
( ) 内 1～9月累積

### 年次別 年間報告数の推移(昭和62年～平成20年)

報告年	エイズ患者	HIV感染者	計
昭和62年～平成10年(累積)	14	26	40
平成11年	2	3	5
平成12年	3	3	6
平成13年	2	4	6
平成14年	4	5	9
平成15年	2	9	11
平成16年	2	19	21
平成17年	3	6	9
平成18年	8	17	25
平成19年	7	15	22
平成20年(1～9月)	(3)	(12)	(15)
報告数合計	50	119	169